

**SSKO**

Drug Addiction Rehabilitation Center

**DARC**

*Grow up!!*  
栃木DARC

ニュースレター 第63号(2008, 7, 14)

特定非営利活動法人が認可されました

栃木DARC  
理事長 栗坪千明

時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

私たち栃木DARCは6月4日をもって「特定非営利活動法人 栃木DARC」となりました。事業内容については先月ご報告した通りで、

- ① 薬物依存症者とその家族への回復支援事業
- ② 薬物依存症に関する一般に向けた啓発事業

です。

役員の方々は、各方面の専門家の方々になっていただきました。精神科医、弁護士、作業療法士、民間刑務所の教育担当者、ボランティア関連の専門家と心強い限りです。

その専門性を生かして、今あるプログラムをより強化し、施設自身の社会性も高めていきたいと思えます。

一番目の薬物依存症者とその家族への回復支援事業は、これまで栃木DARCはリカバードのスタッフのみで活動をしてきましたが、最近特に多様化してきた薬物依存者を考えると、今のところはこれで良いのかもしれませんが、今後は私たちの手に負えなくなってくる部分も出てくるのではないかと思います。そうした場合、リカバードではなく、違った見方、かかわり方をする専門家がプログラムを提供するという必要になって来ます。

ただ、今の段階では、どのような人材が必要か、また資金的にどうかということが分からずにいます。私は今まで海外（特にアメリカ）の施設に見学に行く機会に恵まれ、いくつかの施設に行ったのですが、いつも圧倒されるのが、豊富な資金、多種多様な専門家、細分化されたプログラムの実施でした。日本の依存症者にとって

良い悪いは別として、一般の理解と行政や関係機関の認識が明らかに違うということでした。30年前はアメリカも今の日本と同じだったということですが、ということは日本は30年遅れて薬物問題に取り組んでいるということなのかも知れません。

また、依存症者に関係の深い家族のプログラムについても見直していく良い機会でもあります。これは私たちだけでは解決しない問題です。家族会のメンバーと話し合いながら、お互いが良い関係でいられるよう、プログラムを提供していけたらと思います。

栃木DARCが開設されてから、5年の月日が経ちました。これまでも試行錯誤しながら私たちなりに回復プログラムを実施してきました。それなりの成果は上げていると実感しています。しかし新しいプログラムはこれ以上のものはできないということはないと思います。

さらに効果のあるプログラムを考えていくには、私たちとは違う視点で見られる人たちの意見は重要です。

二番目の薬物依存症に関する一般に向けた啓発事業は、私自身がDARCのプログラムで回復したので、DARCのプログラムは有効です。これはまぎれもない事実です。ただ薬物依存症は覚せい剤などの違法薬物は犯罪でもありますが、精神の障害なのだということの理解が関係機関だけでなく、一般の方々にも理解されないことには、これ以上の進展はないように思います。

そのことを踏まえ、より有効な啓発方法について考えていきます。それには一見薬物問題には関係なく見える機関との連携もしていく必要があると思います。新しい社会資源と協力していきます。

私たちとは違う視点で見られる人たちの意見は重要です。法人化を機に心機一転新たな気持ちで活動していきます。

今後も引き続き栃木DARCへのご支援をお願いいたします。

## 息子と家族会から学んだこと

F・N

息子は今、3年間の栃木ダルクを円満退寮し、私達家族と同居をしながら夫と一緒に働いている。

この3年間の入寮期間が親子共々、特に私にとっては大変意義深い年月であったと感じています。

———息子が薬物になぜ嵌ってしまったのか———

私達、親が子どもに対しての接し方で何か問題があったのだろうか。家族会へ繋がるようになって自問自答を繰り返していました。

息子が生まれたときとても嬉しかった。特に夫は子育てには殆ど関わることはありませんでしたが、長男の誕生を手放しで喜んでいたものです。長男としてこの世に生を授かったのだから、長男としての自覚を持った子に育てよう、長男とはこうあるべき。男児は強く逞しく…。親子とは言え、別々の人格を持った一人の人間であること等、全く無視し、人間関係のスタート時点で大きな過ちをしてしまっていたのです。

ただひたすら「可愛がっているよ。」と信じ込ませ、親の期待をかけ、親の権威を振りかざし、息子の心の内を察することなく一生懸命（これがクセモノ）関わり続けてきました。

「俺、家に居たくないんだ。いやなんだよ。家が面白くないんだ。」高校生になったばかりの頃、毎晩遅く帰宅するようになり、こんな言葉をポツリと漏らしたことがありました。

「何でなのよ。こんなに一生懸命あんた達 子どものことを思ってがんばっているのに、どうしてわかってくれないのよ。」

その頃の息子の行動が、親子関係に警告を発していたことなど、当時の私には全くわかっていなかったのです。今、振り返ってみると私は、大分狂っていたんだと思います。

そんな関係を続けて行く過程で、息子が心の奥でどれほどの生き苦しさを感じていたのでしょう。その後親の見えない所で次々と問題を起し始めて行ったのです。

事が起こるたびに謝罪をし、尻拭いをし、何でこんなに苦しめられるのかと自分の傲慢な部分を柵に上げ、ますます彼を責め続けました。

その反面男子なのだから、このくらいのことは、しょうがないと偽りの受容をし、一生懸命尻拭いをし、すばらしい共依存関係を築き上げていきました。



ある書物にこんな事が書かれていました。

———人間の精神が健康に育つかどうかは、経済的に恵まれているかどうかは関係ない。親の情緒が成熟しているかどうかにかかっている。未成熟な親は子どもを自分の思い通りに押

さえ込み、その子を素直な子と錯覚して安心する。――

世間体や私の未成熟な価値観から、こうすることが母親として当たり前と、長い間、子どもをコントロールし、心に大きな傷を負わせていたのです。

子育てにやり直しはできませんが、彼がダルクに入寮し私達夫婦は、家族会へ繋がり、勉強を続けることで、親が一生懸命に子どもに関われば関わるほど（過干渉）子どもは苦しくなるものだと理解し、親達がこれまでの生き方を変えて行く事が、周りの息子や他の子どもも楽になって行くと確信したのです。

夫婦で家族会へ通うようになって、夫婦の会話も増え絆も深くなったような気がします。

先取り不安症の私が、頭をもたげることも、たまには有りますが、彼を信頼し、見守り続け、共依存にならないよう「成るようにしか成らないのだから、その時はその時さ。」ポジティブに考えられるように変化してきている現在の私です。

家族会で、先行く仲間達や講師の方々、施設のメンバー達、たくさんの方々から多くのことを学ばせていただきました。そして何より息子から、一番大事な事を学ばせて貰ったと言えるでしょう。

今では本当に感謝と有難うです。

家族会へは自分の生き方を変え、楽に生き続けるためにも、ずっと通い続けて行きたいと思っています。仲間と苦しさを分かち合いながら…。

私は私 あなたはあなた  
私は私のことをする  
あなたはあなたのことをする  
私はあなたの期待に応えるために  
この世に生きているわけではない  
あなたは私の期待に応えるために  
この世に生きているわけではない。  
あなたはあなた 私は私  
偶然二人が出会えば それは素晴らしいこと  
出会わなければ 仕方の無いこと

5.6.7月とイベントが目白押しで普段は山の中？に生活しているメンバーたちが街へ降りる季節です。

バザー、キャンプ、ジャガイモ掘り等  
7月にはプレジャープログラムで日光東照宮を皆で見してきました。これからは川遊びかな～



### 7.8月予定

- 7月25日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 27日 アディクション家族会とちぎ
- 28日 黒羽刑務所感謝状贈呈式
- 8月1日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 5日 栃木県アルコール関連問題研究会
- 6日 宇都宮南ロータリークラブ講演
- 7日 栃木県薬物依存症フォーラム
- 8日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 22日 薬物依存症者に対するHIVワークショップ
- 31日 アディクション家族会とちぎ

発行所

郵便番号一五七〇〇七三 東京都世田谷区砧六―二六―二一  
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

### 5.6月献金を下さった方々

真野高広様、宇都宮家族会様、尾崎伸弘様、くるみの木の会様  
水井清次様、森谷和義様、赤石美紀代様  
匿名9名様

### 5.6月献品を下さった方々

大藤礼子様、大金玉枝様、大和田訓治郎、聖血礼拝修道女会様  
森谷和義様、野崎正雄様、水井清次様、助川悦夫様  
河合聡様、岩上昌雄様、渡辺欽蔵様、小林康行様、  
(有)林屋川魚店、星観光ぶどう園様  
匿名5名様

編集

NPO 栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com>

Eメール: [nesm@t-darc.com](mailto:nesm@t-darc.com)

定価100円